# 2023年度事業計画

2023年4月1日～2024年3月31日

## １．2023年度の活動方針

当会の理念・目的を達成するために専門性を高め、以下の諸事業に取り組みます。

### (1) オンブズマン養成事業（研修会の開催など）

①介護保険制度のオンブズマン養成事業としての研修会事業は、市民目線に立った諸活動ができる専門性の高い人材育成を目指し取り組みます。

②研修会は、会員の要望に基づいて、介護保険や医療･福祉、社会保障に関することなど基礎的なテーマについても工夫しながら研修に取り入れます。また、地域や高齢者のかかえる問題をさまざまな角度から取り上げていく予定です。

③第９期介護保険事業計画（2024年～2026年）に向けて、介護保険法の問題点や課題について取り組みます。

④講演のあとグループに分かれて意見交換を行うほか、講師と質問・意見交換を活発に行い実のある楽しい参加型研修会を実施します。

⑤各種助成制度の活用を図ります。

⑥多くの一般市民の参加を得られるよう、さらに内容や広報にも工夫して取り組みます。

### (2) 介護・福祉サービス第三者評価事業

NPO 法人きょうと介護保険にかかわる会が調査を行う際は、「ポジティブ・アシスト（肯定的支持）」を基本とし、常に事業所の「伴走者」となるよう臨んでいます。

事業者の現状を確認し、できていることはより上を目指し、できていないことはどのようにすれば改善できるかを、事業所と一緒に考え支援したいと思います。

①調査者のスキルアップ

・2023 年度 4 月改定の新評価基準（評価項目追加等）に基づき調査を行います。

※ 調査者全員が新評価基準についてのフォローアップ研修受講し、改定の主旨を熟知の上、調査します。

・京都介護･福祉サービス第三者評価等支援機構が開催するフォローアップ研修に参加します。

・きょうと介護保険にかかわる会として、内部研修を実施します。

・第三者評価者に必要な介護保険情報をタイムリーに周知します。

・調査リーダーの育成を図ります。

②人材の確保（増員）

・今年度も引き続き調査者の人材を 2 名増員します。

③第三者評価応募事業所の拡大

・第三者評価のメリットを、京都介護・福祉サービス第三者評価等支援機構を通して発信します。

・きょうと介護保険にかかわる会のネットワークで、第三者評価の受診を勧めていきます。

④第三者評価事業の運営体制

・第三者評価事業の運営体制として、運営責任者および事務担当者の 2 名を置きます。

・運営責任者の主な業務

1) 支援機構との諸連絡および各種報告書類確認

2) 支援機構からの調査依頼受諾後、評価リーダーおよび調査者選任と調査日調整

3) 受診事業所との調査日調整および確定

4）審査委員の調整および審査会日程調整
5）審査会の開催
6）審査会後の受診事業所への評価結果の報告および評価確定
7）理事会への調査一覧表の提出
8）支援機構からの各種研修(評価者養成研修、フォローアップ研修等)の案内および周知
9）評価機関連絡会議(※1)への出席
10）３年毎の評価機関認定更新(※2)
(※1)評価機関連絡会議・・梶理事長が会長(発起人)、2～3か月毎に開催
(※2)令和６年３月が更新時期となっており、更新申請書類を当会事務局の協力を得て作成。

・事務担当者の主な業務：
1）受診事業所への調査準備書類および契約関係書類の作成、発送
2）審査会後事業所に結果通知を送付
3）結果通知に対する事業所承諾の後、支援機構に報告
4）三評の調査料・審査料の報酬一覧表の作成(支払い等の会計業務は除く）
5）支援機構への各種報告書作成

### (3) 調査・研究事業

2023年度は、京都市高齢者施策推進協議会で「第９期 京都市民長寿すこやかプラン（高齢者保健福祉計画と介護保険事業計画）」が検討される時期です。第９期プランの対象期間には、地域包括ケアシステムの構築期限とされている「2025年」が含まれていることもあり、京都市高齢者施策推進協議会の傍聴を含めて、積極的に情報収集に努めます。さらに、その検討内容を研究会参加者の関心課題との関連の中で取り上げて研究を行います。

### (4) 広報・啓発事業

①会報の発行

会報は年６回（偶数月）発行し、会の情報発信の要として活用します。会報の部数が増え、効果的に運用されることが重要であるという観点に立ち、まずは「よりよい介護をつくる市民ネットワーク構成団体」での無償配布等の可能性を検討します。また他団体の催しでの配布、配架場所の追加など、より幅広い方々に手に取ってもらえる方法を工夫します。

内容としては、研修会をはじめとする会の活動紹介や報告を軸としながら、介護保険制度の動向をはじめ介護サービス利用者やその家族の声、介護事業者の皆さんの投稿なども掲載し、行政（保険者）と利用者、介護事業者をつなぐという、会の活動目的に沿った内容の充実に努めます。

また、会員による寄稿やリレーえっせぃ、会員のひろば等、会員同士のコミュニケーションを図る企画にも継続して取り組みます。

129 号 2023 年 4 月 7 日

安心できる介護・納得できる介護保険・信頼できる制度の実現

NPO 法人　きょうと介護保険にかかわる会

発行人　梶　宏
事務所　〒604-8811 京都市中京区壬生賀陽御所町 3-20　賀陽コーポラス 809
TEL・FAX:075-821-0688　E-mail:npokakawarukai@helen.ocn.ne.jp
https://npokaigo.or.jp/

どうしても言い残したい

理事長　梶　宏

2023年度予算は国会でそれほど揉めることなく確定した。「史上最悪」と言われた介護保険についての改悪案も全国的関係者の声を受けて、車いすで駆け付けた樋口恵子さんも含め、上野千鶴子さんらが行った院内集会が盛り上がったこともあって、「ケアプランの有料化」や「介護1及び2については総合事業に移す」などという改悪が一応ひっこめられた。

このままでも、例えば昨年は全国で介護保険関係事業所が140余か所倒産するという事態が起こっており、ホームヘルパーをはじめとして、介護労働者の不足が話題になっている。最近の卵価格上昇が象徴的で、不足すれば値段が上がるはずだが、介護労働者の賃金が上がる気配はそう顕著ではない。

顕著に増えているのは、防衛費だ。22年度当初予算5兆4,000億円だったのが、23年度には、何と26.3%アップし6兆8,200億円である。この上今後5年間の軍事費（もはや防衛費の段階ではない）を総額43兆円にするというのだ。ウクライナの現状を見れば、防衛の体制がないと何を起こされるか分からないという不安は多くの日本人にもあると思う。だからといって「力には力」でという論理では、いずれ世界全体が共倒れの道を歩むこと必至だ。

私たちは、先の戦争で大失敗したことから学んで、その後70年近く直接的に戦争に荷担せずに済んできた。これは貴重な体験である。

そのため平和ボケしているという考えもあるだろう。だが表面はボケてもいい。ボケは人を笑わせるために大きな役割を果たす。深い考察を根っこにもつボケを演じて人類社会に貢献する可能性は十分にある。

あの戦争のとき、本当にクソ真面目に国家に奉仕、さらには殉ずることを真剣に考えた自分の体験は忘れない。ただ、それをどう伝えたかと問われると恥ずかしい。これから私にできることは、可愛いボケ老人になるか、忘れないことをしっかりと語り続けるかどちらかだと思っている。

幸か不幸か私は、胃腸に障碍をかかえているため、ご先祖様にはだれひとりない90歳というバーをあと1年で超えるところまで生きてきた。国際政治に関心をもったということだけは共通性をもつ、同い年の優等生、20年前に早逝してしまった高坂正堯さんが、今生きていたら日本政府に対しどういう意見を吐くだろうか。

2023年度通常総会
5月20日（土）13:30～14:30　ひと・まち交流館 京都　第5会議室
15:00 から同会場で記念講演会を開催します。詳細は P7 に。

目次

どうしても言い残したい・・・1
2月研修会報告「成年後見人のここが知りたい！」・・・2～3
3月研修会報告「民間企業の介護ビジネスへの参入は何をもたらしたか？」・・・4
よりよい介護をつくる市民ネットワークが京都市に提言し、懇談しました・・・5
介護保険ホット News「介護事業所の倒産・休廃業が過去最多に！」・・・6
シリーズ「私の介護体験」／4月研修会・5月総会記念講演案内・・・7
会員リレーえっせぃ／シルバー川柳／編集後記・・・8

-1-

②ウェブサイト・SNS の管理

ホームページについては会の活動内容を速やかに反映したものにすることをめざします。

また介護保険制度をめぐる動きや関連団体の活動など、介護保険に関心のある市民にとって興味深い内容の掲載に努めます。Facebook の利用についても継続的に取り組み、LINE につい

ても検討を始めます。

③研修会広報の取り組み

研修会案内の会報やホームページへの掲載、チラシの作成や運用については従来通り取り組みます。研修会チラシの裏面に会の入会案内を記載し、研修会に関心を持った一般市民の新入会を促します。京都市福祉ボランティアセンター・長寿すこやかセンターの情報欄の活用を図ります。

④啓発活動の具体化

2022 年 12 月よりスタートしたメールによる会員向けの情報発信をさらに充実させます。また資料請求者を広く募り、メールマガジンの可能性についても検討します。

会員向け、市民向けの啓発活動の在り方や内容について、研修・オンブズマン養成担当理事や調査・研究担当理事とも協力して検討を進めます。

⑤広報活動を組織的、継続的に進めるために

会報やチラシの印刷データ作成やホームページ更新のスキルが、一部メンバーに偏っていることが広報グループの課題です。担当者を複数化することで、レベルの高い広報活動を組織的、継続的に進めていきたいと考えています。

**⑸ 関係諸団体との連携強化**

2016年 12月に発足した「よりよい介護をつくる市民ネットワーク」構成５団体をはじめとする諸団体や事業者、特に「実態調査」を契機にして培った地域包括支援センターとの日常的な関係を深めていきます。

また「よりよい介護をつくる市民ネットワーク」においては、構成団体主催の研修会への相互参加を進めるなど、各団体の強みを伸ばして総合力を高める方策を、事務局担当団体として提案していきます。

**⑹ 会の運営（事務局）**

①会員の把握、交流、参画をめざします。

会員が会の活動に主体的に関われる機会を増やしていきます。そのための土台作りとして、まず会員管理を丁寧におこない、会員アンケートを実施するなど情報の収集と整理を行います。また、会員が事務所に気やすく訪ねて来られる機会を作ります。（サロン、理事会傍聴、発送作業のお手伝い募集など）

②課題の再構築と「大変でも楽しい」といえる組織風土づくり

当会設立後20余年を経て、介護保険制度も制度をとりまく環境も大きく変わってきており、会の取り組むべき課題も変化しています。課題を見据えて新たに目標を定め直すとともに、市民活動として楽しくやりがいの感じられる方法を、会員相互に探求して行きます。

③事務の効率化と定型化

・事務局体制の再構築（事務作業の総点検と効率化）をはかります。
・過去データの整理と保存
・会計事務のマニュアル作成

## ２．特定非営利活動事業に関すること

| 事業名 | 具体的な事業内容 | (A)実施予定日時<br>(B)実施予定場所<br>(C)従事者の予定人数 | (D)受益対象者の範囲<br>(E)予定人員 | 事業費の予算額<br>（単位：千円） |
|---|---|---|---|---|
| オンブズマン養成事業<br>（研修会開催） | 介護・福祉・医療・社会保障に関するテーマを中心に研修会及びシンポジウムを開催。 | (A) 年10回開催<br>（８・12月を除く）<br>(B)ひと･まち交流館ほか<br>(C)各回：8人 | (D)会員及び一般市民<br>(E)各回　30人～40人 | 170 |
| 介護・福祉サービス第三者評価事業 | 介護・福祉サービスの第三者評価を受託し、市民目線に立った評価を基本に、事業所の伴走者として信頼される評価を行う。 | (A)4月から3月まで 随時<br>(B)京都府内の介護･福祉サービス事業所<br>(C)調査員は各回 2～3人<br>審査員は各回 6人 | (D)京都府内の<br>介護サービス 15<br>福祉サービス　3<br>計18事業所を予定<br>(E)不定 | 2,499 |
| 広報・啓発事業 | 会報の発行 | (A)年 6回発行　偶数月<br>(B)主として京都市内<br>(C)広報部員 7人 | (D)会員及び関係事業所等<br>(E)各回400部発行 | 214 |
| 調査・研究事業 | 第９期 京都市民長寿すこやかプランの策定に向けての、京都市高齢者施策推進協議会の協議情報の収集と伝達。 | (A)4月から3月まで 随時<br>(B)京都府、京都市他<br>(C)調査・研究員 4 人 | (D)会員及び関係事業所等<br>(E)不定 | 79 |

オンブズマン養成事業

調査・研究事業